

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2025年 7月 31日

テーマ「サステナビリティの推進」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)院長
中道 基夫
(総務部)

1. 長期戦略のテーマ

超長期ビジョン	長期戦略（テーマ名）	統轄部署
8 学校経営	(12) サステナビリティの推進	総務部院長事務課
内容 本学は、2019 年に SDGs 推進本部の設置と同時に「関西学院大学 SDGs 宣言」を発出し、教育・研究・経営・KSC・統括の 5 分野において関連の施策を推進してきた。その結果、多分野において着実に成果が挙がっており、フェーズ II においては、国連大学 SDG 大学連携プラットフォームとの連携による入門科目「SDGs スタディーズ入門 2」の開講、推進本部公認学生団体「KG SDGs キャンパスサポーター」による学内外での活動の本格化、KSC におけるペットボトル削減エコシステムによるごみの削減などが実現した。 他方、世界では、2019 年以降も地球温暖化による気候変動および生物多様性の喪失が依然として深刻化している。世界の平均気温はほぼ毎年最高値を更新しており、観測史上最も暑い年となった 2024 年には、世界各地で記録的な豪雨・洪水・熱波・森林火災・干ばつ等の自然災害が発生し、甚大な人的・環境的損害が生じている。地球環境および人間社会のサステナビリティ（持続可能性）の担保がかつてなく緊要となっている現代においては、あらゆるアクターによる倍回の貢献が強く求められており、高等教育機関も例外ではない。過般来、設置形態や規模を問わず、欧米を中心に世界中の大学が気候アクションプランやサステナビリティ戦略を策定し、キャンパスにおけるネットゼロおよびゼロウェイストの目標達成に向けて具体的な施策を推進している。 本学の SDGs 長期戦略は、教育や啓発などのソフト面では一定の成果を挙げたが、CO₂ の排出削減に資するハード面の取り組みについては、ネットゼロに向けた施策は設備の更新に留まり、廃棄物削減に向けた施策は一つのキャンパスに限定されるなど、改善の余地が大きい。SDGs 長期戦略には、実質的な進捗を計測できない指標や SDGs の個別のターゲットとは関連しない取り組みが含まれているなどの構造的な問題もあることから、フェーズ III においては、SDGs 長期戦略を再編し、SDGs よりも広範な概念であるサステナビリティを枠組みとする長期戦略・実施計画を策定する。 国際水準のサステナビリティを推進すべく、アメリカの認証システムや国際的なランキングの評価対象領域を参照し、①学術・②参画推進・③経営・④計画管理の分野で、キャンパス・サステナビリティの基本を踏まえた多岐にわたる施策を推進する。新戦略の中では、③経営の中の「温室効果ガス削減」・「廃棄物削減」・「水に係る諸問題」および④計画管理の中の「情報発信の強化」・「ガバナンスの強化」・「自己点検・評価」を重点分野に位置づけ、個々の施策の中では「カーボン・ニュートラル達成に向けたロードマップの作成・公開」を最重要施策に位置付ける。従来本学の課題であった学院自身が主体となった気候変動対策（およびその広報）を推進することで、①学術・②参画推進の施策と並行して、学生のみならず教職員の世界市民としての意識を醸成する。 新戦略の策定に当たっては、現代の高等教育機関の社会的な責務を認識しつつも、より根本的に、現代における最たる地球規模課題の解決への貢献なくして本学の教育理念の体現は叶わないとの認識を指針とする。日本のみならず世界各地の深刻な気候変動問題に思いを馳せ、個々の立場から成し得る貢献を意識しながら日々自己研鑽に励むことこそ、現代における「Mastery for Service」を体現する、創造的かつ有能な世界市民の一典型と言えよう。このような人材を育むためにも、新戦略の中では、特に環境サステナビリティに焦点を当て、SDGs の関連ゴールも明示しながら、学術・参画推進・経営・計画管理に係る施策を推進する。総じて、学院として人材育成および経営の両面から現代の最たる地球規模課題の解決に尽力することにより、ベーツ第 4 代院長が学院の「purpose」「mission」「destiny」「future」と形容された「出来るだけ大いなる service」の体現に邁進する。		

I . 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「サステナビリティの推進」

提出日 2025年 7月 31日

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	院長 中道 基夫 (総務部)
-----------------------	----------------------

(長期戦略テーマ：フェーズⅡ「SDGs の推進」⇒フェーズⅢ「サステナビリティの推進」) 【フェーズⅡに向けた課題】 ・ KSC における「サステナブルエナジーの一大研究拠点の構築」の推進 ・ KSC のサステナブルキャンパス実現への具体策検討 ・ SDGs 推進に向けたさらなる具体策の検討 【フェーズⅡの Total Review】 ・ KG SDGs キャンパスサポーターの活動が活性化し、自治体や企業等との連携事例の増加に加え、学内関連団体のプラットフォームとしての機能整備が進んでいる。 ・ 省エネや働く場のダイバーシティを推進する取り組みが進捗している。 ・ 個々の取組は一定の成果を出しているが、総合的に本学がめざす将来像とそのための戦略・計画を描くだけのリソースが統轄部署に確保されていない。 (長期戦略テーマ：「サステナビリティの推進」) 【フェーズⅢに向けた課題】 ・ 関西学院（大学）全体としてのサステナビリティ戦略・計画の策定 ・ <u>サステナビリティ推進の統括部門（総務部院長事務課）の体制強化による各種施策の推進</u>

指標

指標	内容
指標名	サステイナブルキャンパス評価システム
定義・算式	一般社団法人サステイナブルキャンパス推進協議会が運営する「サステイナブルキャンパス評価システム」（事務局：北海道大学サステイナビリティ推進機構キャンパスマネジメント部門）を活用し、①運営・②環境・③教育と研究・④地域社会の4部門・計170個の基準に沿って自己評価を行う。
現状値 (指標設定時)	－
目標値	フェーズ3終了時（2027年度） ゴールド認定（得点率65%～85%）の獲得 ※申請は2027年度秋を予定
実績値	2025年度 ー
	2026年度 ー
	2027年度

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「サステナビリティの推進」

提出日 2025年 7月 31日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)院長
中道 基夫
(総務部)

2. 実施計画ロードマップ

実施計画	担当部署	学部・研究科での 取組み有/無	帳票の 有無	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
① サステナビリティの 推進（学術）	国際連携機構事務部 教務機構事務部 研究推進社会連携機 構事務部	必要⇒【選択型】 （学部・研究科 が任意で取組み を選択）	無									
② サステナビリティの 推進（参画推進）	総務部院長事務課 学長室 人事統括部 研究推進社会連携 機構事務部	必要なし	無									
③ サステナビリティの 推進（経営）	施設部施設管理課 総務部総務課 労務部 総務部院長事務課 （財務統括部）	必要なし	無									
④ サステナビリティの 推進（計画管理）	総務部（院長事務 課） 財務統括部	必要なし	無									
⑤		↓学部・研究科 での取組みの必 要有無を選択く ださい。										
⑥		↓学部・研究科 での取組みの必 要有無を選択く ださい。										
⑦		↓学部・研究科 での取組みの必 要有無を選択く ださい。										
【備考欄】												

※想定される実施計画の例示

- ① SDGs に関する取組の発信（統括分野）
- ② SDGs の推進（教育分野）
- ③ SDGs の推進（研究分野）
- ④ SDGs の推進（経営分野）
- ⑤ SDGs の推進（KSC 分野）

※ロードマップ策定作業用記号

Ⅰ．長期戦略テーマ別帳票

提出日 2025年 7月 31日

テーマ「サステナビリティの推進」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)院長
中道 基夫
(総務部)

3. 本長期戦略テーマの各実施計画に関する費用、人員の合計（2019年度～2027年度）

◆フェーズⅠ：2019年度～2021年度（長期戦略テーマ：「SDGsの推進」）

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2019年度	2020年度	2021年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計（経費＋人件費）			

◆フェーズⅡ：2022年度～2024年度（長期戦略テーマ：「SDGsの推進」）

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2022年度	2023年度	2024年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計（経費＋人件費）			

◆フェーズⅢ：2025年度～2027年度（長期戦略テーマ：「サステナビリティの推進」）

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2025年度	2026年度	2027年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計（経費＋人件費）			

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2025年 7月 31日

テーマ「サステナビリティの推進」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)院長
中道 基夫
(総務部)

4. 進捗状況等記入欄

	進捗状況および今後の課題、方向性
長期戦略テーマ：「SDGsの推進」	
2019年度	①東洋経済ムック「SDGsに取り組む大学」第1版を発行し、好評を得た。 ②「(仮称) SDGs スタディーズ」新設へ向けた検討を行った。 ③研究者DBにおいて、各研究テーマとSDGs17のゴールとの関連性を明示するとともに、検索機能を改修した。 ④子育てサポート企業「くるみん認定」を受けた。 ⑤ごみ排出量減少のための「オリジナルマイボトル」の具現化に向けた検討を行った。
2020年度	①統括部門 東洋経済ムック「SDGsに取り組む大学」第2版を発行し、好評を得た。 ①統括部門 SDG大学連携プラットフォーム、関西SDGsプラットフォーム大学分科会、内閣府地方創成SDGs連携プラットフォームに参画し、本学のSDGsへの取組発信や情報収集を行った。 ②教育部門 「SDGsスタディーズ入門」新設へ向けた具体的な検討・調整を行った。 ③経営部門 「第1回 日経大阪梅田エリアSDGsフェスティバル」に参加し本学の取組を発信した。 ④研究部門 「研究者データベース」の情報登録者割合実績：19.8% SDGs Ideathon等の開催 ⑤KSC部門 企業と連携した「オリジナルマイボトル」の開発やBizCAFE設置等を行った。
2021年度	【部門】 【成果（一部抜粋）】
	統括部門 ・東洋経済ムック「SDGsに取り組む大学」第3弾を発行し、好評を得た。 ・2021年12月に、KG SDGs キャンパスサポーターを立ち上げ、キックオフイベントを行った。また、ホームページ（ http://kg-sdgs.com/ ）を開設し、情報発信を開始した。
	教育部門 ・授業科目「SDGsスタディーズ入門」を開講した（履修者数695名）。
	経営部門 ・研究者研究活動支援者（ピンチヒッター）制度を男性の育児者にも拡大して運用を開始した。 ・外部業者を活用して農園の運営を安定させ、障がい者の法定雇用率を上回る数値を達成した。
	研究部門 ・イノベーションジャパンにオンライン出展し、500件を超えるアクセスを得た。 ・手話学コロキウム（全4回）をオンライン開催し、計200名を超える参加者が集まった。
	KSC部門 ・アカデミックコモンズ・プロジェクトにおいて、「SDGs・タイプ」のプロジェクトを15件採択した。 ・KSCの学生限定オリジナルマイボトルを2,540本販売した。
2022年度	【部門】 【成果（一部抜粋）】
	統括部門 ・関西SDGsプラットフォーム大学分科会」の活動の一環として、「SDGs教育」事例報告会をオンライン開催した。50名を超える参加者が、国連ユースボランティアに参加中の本学生からの報告等を視聴した。 ・KG SDGs キャンパスサポーターが学内のSDGs関連団体の交流会『KG SDGs カフェ』を開催し、計7団体約30名の学生の参加を得た。
	教育部門 ・昨年度に引き続き、授業科目「SDGsスタディーズ入門」を開講した（履修者数は200名）。 ・大学によるSDGsの取り組み（関連科目の紹介を含む）に関する冊子を制作した。
	経営部門 ・既存設備の経年劣化や安全対策等により一部計画変更を行ったが、概ね予定通り設備更新を行うことができた。 ・2回目のくるみん認定を取得した。また、職員の人事評価における取り扱いを変更したことにより、これまでより育児休業を取得しやすい環境を整えることができた。
	研究部門 ・イノベーションジャパンに出展し、4件のシーズに対し561件のアクセスを得た。 ・「長期戦略テーマ：研究ブランドの確立」の「実施計画3-(2)-②：『核となる研究群』を育成し、さらに進化させる仕組みの構築（インスティテュート制度）」として、【Sustainable Energy インスティテュート（所長：吉川 浩史 工学部・教授）】を指定した。
	KSC部門 ・アカデミックコモンズ・プロジェクトにおいて、「SDGs・タイプ」のプロジェクトを9件採択した。 ・KSCの学生限定オリジナルマイボトルを1,282本販売した。
2023年度	今後の長期戦略・実施計画の検討にあたり、現時点での課題を以下に記載する。遅くともフェーズIII（2025年度）から具体的な行動計画を遂行できるよう、検討を進めていく必要がある。 【課題一覧】 1. 【取り組みの枠組み】 現在の長期戦略のテーマは「SDGsの推進」となっているが、SDGsの169個のターゲットの多くは開発途上国を念頭に置いており、学術機関としては推進することが叶わない目標も多数含まれているのが実態である。また、本学の長期戦略の中には、広義の持続可能な社会の実現には資するものの、厳密にはSDGsのターゲットとの関連が稀薄な取り組みも含まれている。 SDGsに代わる推進の枠組みとしては、より広範な概念である「サステナビリティ」が存在する。欧米の大学では、大学独自のサステナビリティ戦略を策定し、その中で関連の取り組みがSDGsのどのゴール・ターゲットに貢献するかを

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2025年 7月 31日

テーマ「サステナビリティの推進」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)院長
中道 基夫
(総務部)

明示することが通例となっている。本学としても、2030 年を達成年度と定める SDGs ではなく、2039 年および同年以降も見据え、サステナビリティというより広範な枠組みで大学の取り組みを検討することも今後の方策として考えられる。

2. 〔計画〕

SDGs 推進本部の設置に当たり、「現状に関する検証・マッピングや今後の具体的な行動計画『Mastery for Service' for SDGs Initiatives』を策定し、推進する」旨が本帳票に記載されたが、「今後の具体的な行動計画」は今以て策定されていない。現在の取り組みは、個々の部門による取り組みの集合体に留まっており、大学全体としてのサステナビリティ推進のコンセプト（モットー）・実現を目指す未来像・最終的な数値目標・具体的な重点分野などは未だに設定できていない。

3. 〔人員〕

具体的な行動計画の策定のために、関連調査・分析や検討・協議が必須であるが、統括部門の担当職員（専任職員・契約職員各 1 名）は増加傾向にある日々の管理・連絡調整業務に追われており、フェーズ II（2022 年度～2024 年度）の課題「SDGs 推進に向けたさらなる具体策の検討」に着手することさえできていない。本学がより実質的なサステナビリティ推進を志向するのであれば、人員体制の拡充は必須である。

4. 〔指標設定〕

現在、SDGs への取り組みの進捗を測る指標は「スクールモットーの浸透度」および「本学のイメージ（高校生、高校教員）」となっているが、いずれも実質的な SDGs の推進度を測れるものではない。ついては、改案を検討することが必要である。国内外の関連認証（ランキングや評価システム）を指標として設定することが一案として考えられるが、学内での関連データの収集・取りまとめ・認証機関への申請などの手続きが生じるため、上述の人員の問題に直面する。

5. 〔推進体制〕

現在は教育部門以外については学部・研究科での取り組みが不要となっているが、2019 年に発出された本学の SDGs 宣言に謳われているとおり、大学の教職員・学生一人ひとりが SDGs への貢献を強く意識することが求められているため、SDGs の推進においては学内のあらゆる組織を参画させることが望ましい。欧米の主要大学では、教職員・学生が一体となって大学の気候アクションを構想するイベントを定期開催したり、教職員・学生による独自のサステナブル・プロジェクトを支援する助成制度が設けられたりしている。本学においても、SDGs の推進が本部の担当部署以外に波及するような全学的推進体制の構築が理想的である。

また、KSC 部門の取り組んできた「ごみ排出量の削減」および「食品ロスの削減」については、キャンパスサステナビリティの基本的な取り組みであり、KSC に限定するのではなく、全キャンパスで展開することが望ましい。

【部門】	【成果（一部抜粋）】
統括部門	2023 年 12 月、講談社発行のライフスタイルマガジン「FRAU」の SDGs 版に出稿し、本学生による SDGs 推進活動を紹介した。 - SDG サポーターズ（代表：杉田博幸氏）と連携し、京阪神版 SDGs ボードゲームを共同制作した。学生はファシリテーター養成講座を受講し、進行役として学内外でボードゲームの体験イベントを運営した。
教育部門	- SDGs スタディーズ入門の履修者数が、前年度比 28 名増の 228 名となった。 - 学生向けセミナーやイベントの参加者数が、前年度比 580 名増の 609 名となった（2023 年 10 月に開催した SDGs WEEK が大きな要因）。
経営部門	既存設備の経年劣化や安全対策等により一部計画変更を行ったが、概ね予定通り設備更新を行うことができた（エネルギー削減率は 1.6%）。
研究部門	- ワークショップ『課題解決アイデアソン』・『「今」知りたい学生のためのトークセッション』を開催し、計 46 名の参加を得た。 - 手話通訳研修事業、香港中文大学・Google・日本財団等との国際シンポジウムおよび講演会を各 1 回開催し、計 96 名の参加者を得た。
KSC 部門	- アカデミックコモンズ・プロジェクトにおいて、「SDGs タイプ」のプロジェクトを 6 件採択した。 - KSC の学生限定オリジナルマイボトル 962 本を販売。キャンパス内の自動販売機、関学生協によるペットボトル飲料の販売本数は 2018 年度の 27 万本に対し、113,573 本減少し、10 万本削減の目標を上回った。

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2025年 7月 31日

テーマ「サステナビリティの推進」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)院長
中道 基夫
(総務部)

2024 年度	2023 年度に整理した課題を踏まえ、関連部署と協議の上、4 分野（学術・参画推進・経営・計画管理）の実施計画帳票における具体的な施策一覧を考案した。2024 年度後半から、各帳票の指標・目標・ロードマップ・予算の検討を開始する（2025 年 7 月までに確定を予定）。	
	【部門】	【成果（一部抜粋）】
	統括部門	- 朝日新聞 SDGs ACTION! HP に出稿し、本学生による SDGs 推進活動を紹介した。 - KG SDGs キャンパスサポーターが「SDGs イノベーションサミット in 西宮～大学生の視点から未来を描く～」(西宮市大学交流協議会との連携プロジェクト)を実施するとともに、SDG サポーターズ（代表：杉田博幸氏）と共同制作した京阪神版 SDGs ボードゲームの体験イベントを院内校・企業・地域施設において開催した。また、2024 年 11 月に開催された新月祭において、事前に回収した古着 181 着・古本 167 冊・古文具 202 個を来場者に無償で提供した。
	教育部門	- 授業科目「SDGs スタディーズ入門 1」（春学期）の履修者数は 123 名（定員 200 名）にとどまったが、秋学期開講予定の「SDGs スタディーズ入門 2」の履修者数は 86 名（定員 100 名）であり、充足率が向上した。入門に位置づけられる科目の他に複数の学部で専門分野に関連した授業科目も開講されて広がりを見せている。 - 学生向けの啓発セミナー・イベントとして、2024 年 10 月に第 2 回の SDGs アイディアコンテストの最終公開審査を開催し、約 60 名の聴衆を前に、8 組の学生がアイディアを発表した。また、SDGs WEEK 2023 での連携がきっかけとなり、2024 年 10 月にパタゴニアによる Worn Wear College Tour を開催したところ、150 名の学内関係者が Tour 中のイベントに参加した（古着の無償修繕は計 33 件に上った）。
	経営部門	- 既存設備の経年劣化や安全対策等により、一部計画変更を行ったが、概ね予定通り設備更新を行うことができた。環境負荷の少ない高効率な設備機器を導入しているため、建物や教室における適切な利用（エアコン使用時はドアを開放せず閉める等）が伴えば、更なる効果を発揮するものと考えられる。 - 育児休業の取得に伴う職場への負担軽減施策を 9 月より導入した。 - 研究支援者制度について、研究の補助だけでなく教育の補助にも利用できるように制度を変更し、運用を開始した。
	研究部門	- トークセッション座談会「教えて！先輩の軌跡」では、様々なキャリア形成をしている女性の卒業生をゲストとして招くことにより、多様な働き方について知る機会となった。ワークショップ「世界で一つだけのモールドールを作ろう」では、「西宮市政 100 周年」を背景とした企画である点から、まちづくりへ貢献する機会となった。 (研究所)手話通訳研修事業では、学外研究交流として、フランス国立科学研究センター主任研究員の Patricia Cabredo Hofherr 氏を招いて、フランスのろう教育についての講演およびカタルーニャ手話についての研究発表を通じて、手話の言語学的な現象について参加者と議論を交わした。また、群馬大学と合同研究報告会を行い、それぞれの取り組みの報告を交え、手話教育や手話通訳教育において教育機関である大学が果たすべき役割について意見交換した。参加者数は目標の 100 名を超え、これらの取り組みにより、より一層、多様性や情報保障といった SDGs の価値観の普及に寄与することができた。
	KSC 部門	- アカデミックコモンズ・プロジェクトにおいて、「SDGs タイプ」のプロジェクトを 2 件採択した。 - KSC の学生限定オリジナルマイボトル 979 本を販売。キャンパス内の自動販売機、関学生協によるペットボトル飲料の販売本数は 2018 年度の 27 万本に対し、101,146 本減少し、10 万本削減の目標を上回った。なお、BiZCAFE でのドリンク提供数は 54,338 杯であった。
(長期戦略テーマ：「サステナビリティの推進」)		
2025 年度	2023 年度の記入欄で指摘されていた事項に関する進捗は下記のとおり。	
	1. 〔取り組みの枠組み〕 長期戦略のテーマを「SDGs の推進」から「サステナビリティの推進」に変更した。	
	2. 〔計画〕 戦略の最終的な数値目標・具体的な重点分野を設定するとともに、サステナビリティ推進のコンセプト（モットー）・実現を目指す未来像について、サステナビリティ宣言の発出を含め、更なる検討を進めている。	
	3. 〔指標設定〕 フェーズⅢ期間中の指標として、国内の評価システムの活用を決定した。国際的なランキング等の活用については、フェーズⅢ期間中に 2027 年度以降の申請計画を策定する。	
2026 年度	4. 〔推進体制〕 サステナビリティ推進本部が大学から学院の組織へ改組され、学院全体での取り組みに関する意思決定を行える体制が整った。今後は、学内での機運醸成を目的に、サステナビリティ宣言を発出し、教職員・学生一人一人の意識・行動変容を促すことが緊要である。	
2027 年度		